

私もひと言!

大切なのは「人」

私たちは、これから寄居町の中心になっていく世代。公共施設も大事だけど、一番大切なのは住んでいる「人」だと思います

まつもとみづき 松本瑞月さん(西部)

このままでは

年間21億円×40年で840億円の財源不足

公共施設を安全に利用するためには、定期的な改修、建て替えが必要です。ある公共施設をすべて残すのは財政的に困難……。ではどうするか。ともに(現在の公共施設を維持管理するための年間必要額29億円) - (年間の支出可能額8億円) =

しかし、ハコモノだけでも106カ所考えていきましょう。財源不足 年間21億円



「公共施設」には道路や水道などのインフラも含まれます。

えっ!
こんなに
厳しいの?

寄居の

公共施設



当時の町民の強い要望により、現在の地に建設された中央公民館(昭和55年 建設途中の様子)

あれから40年、未来に何を残すのか……

5 カギは学校の再編

延床面積では学校教育系施設が全体の42%を占めダントツ。

4 耐震性も心配ですね
老朽化が進行

建築物は、30年で大規模改修、60年で更新(建替)が必要。全施設の40%以上が築後30年以上経過しています。

3 守れ、ライフライン

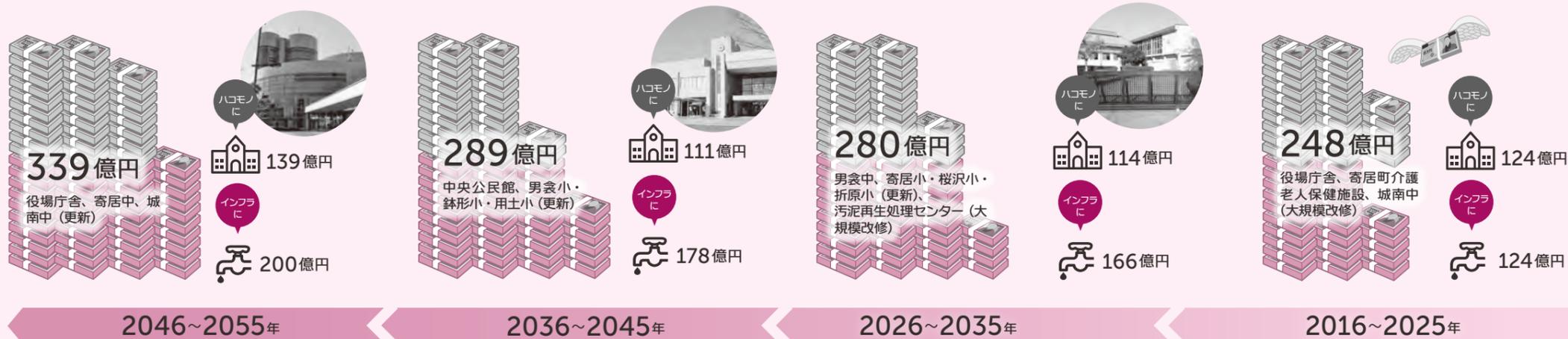
道路、橋、上下水道など町民生活に不可欠なライフラインを削減することは困難です。

2 人口は35%減!

町の人口は、今後40年間でピーク時より35%減の2万5000人になると推計されています。3万8000人で106施設だった公共施設。2万5000人ならば……。

1 平均「毎年21億円」

現在の公共施設を維持していくためには、40年間で毎年29億円(総額1156億円)が必要ですが、町の1年当たりの平均投資的経費額は8億円。このままでは、毎年21億円の財源不足が生じるということになります。



すべての施設を残す場合にかかる費用は……

佐野美香さん(中央) 日和さん(左) 月穂さん(右)(用土)
財政面がこんなに厳しいとは知りませんでした。将来、子ども達に負担はかけたくないですね。

